

石木ダム建設事業

川棚川も同様に傾斜が急であることなどから、過去、幾度となく大きな洪水被害に見舞われてきました。石木ダムは、こうした洪水への対策と合わせて、佐世保市の安定した水源確保を目的とした多目的ダムであり、周辺地域にお住まいの皆様への安全・安心な暮らしを守るため、ダムの早期完成に向けた取組を進めています。

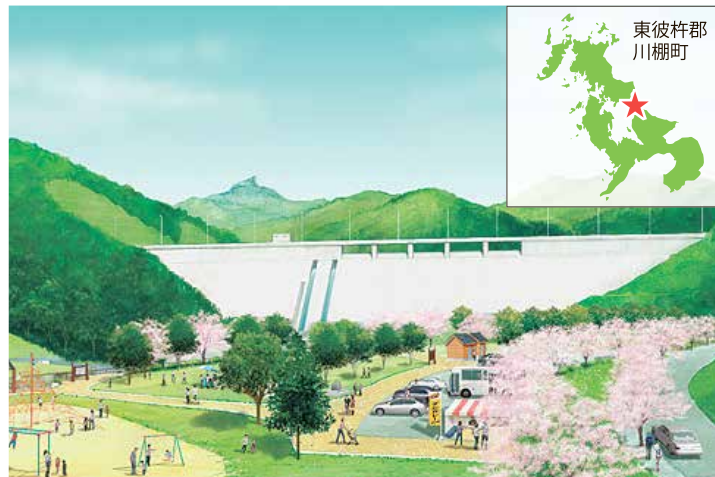
石木ダムの概要、進捗 (H29.3.31現在)

◎事業費/285億円 ◎型式/重力式コンクリートダム

◎ダムの高さ/55.4メートル ◎ダムの長さ/234メートル

◎総貯水容量/548万トン ◎事業の進捗/約52%(約149億円)

| 用地の進捗状況 | 全体 793千㎡ | |
|-----------|---------------|---------------|
| | 買収面積 (千㎡) | 649千㎡ (81.8%) |
| 移転家屋 (戸) | 全体 67戸 | |
| | 54戸 (80.6%) | 13戸 |
| 地権者数 (世帯) | 全体 121世帯 | |
| | 105世帯 (86.8%) | 16世帯 |



ダム直下広場からみた石木ダム完成イメージ



平成27年7月洪水時の川棚駅前付近

川棚川は、流域に人口や資産が密集しており、氾濫すると大きな被害を受けることが予想されるため、河川の改修や石木ダムの建設などにより、概ね100年に一度の大雨に備えることとしています。



重機等による土工作業の進捗状況

川棚町の市街地を流れる川棚川は、大雨によりたびたび氾濫し、周辺住民は大きな被害に見舞われてきました。このため、県は、過去の災害などをもとに川棚川の整備計画を立て、洪水被害の軽減に取り組んでいます。

川棚町の洪水被害

| 発生年月 | 雨量(ミリ) | | 被害状況 |
|----------|--------|-------|----------------|
| | 3時間 | 24時間 | |
| 昭和23年9月 | 187.6 | 384.2 | 床上・床下浸水 2,000戸 |
| 昭和31年8月 | 187.5 | 279.5 | 床上・床下浸水 800戸 |
| 昭和42年7月 | 172.8 | 222.8 | 床上・床下浸水 128戸 |
| 平成2年7月 | 140.0 | 348.2 | 床上・床下浸水 384戸 |
| 川棚川の計画雨量 | 203.0 | 400.0 | 概ね100年に1度の雨 |

川棚町の洪水被害

石木ダム建設事業は、昭和50年度の事業着手以降、歴代の知事が現地を訪問するなど、地域の皆様から理解を得るために説明を行ってきました。その結果、全体の8割を超える地権者の方々に協力をいただき、県が取得した土地で道路の付替工事を進めています。

現在、この工事現場においては妨害が繰り返されていますが、今年の7月に発生した九州北部豪雨や秋田県での大雨など、毎年各地で自然災害が頻発しており、過去に大きな被害を経験した本県としては、地域の皆様の安全確保が行政としての重要な責務であると考えています。

こうした事情から、県は安全に配慮しながら、一日も早いダムの完成に向け、工事を進めています。

事業の推進に向けて

忘れてはいけない、大水害の教訓

今年、長崎大水害から35年、諫早大水害から60年の節目となる年です。県内の河川は、傾斜が急で距離が短いため、大雨が降れば水位が急激に上昇し、これまで幾度となく水害に見舞われてきました。こうした過去の経験を教訓に、河川改修やダム建設などの施設整備を進め、情報提供などのソフト対策と合わせた防災対策に取り組んでいます。



中島川の氾濫により一部流失した国指定重要文化財眼鏡橋

梅雨末期の未曾有の豪雨により、土砂災害や河川の氾濫が同時に多発し299名の尊い命が奪われました。中島川では、河川の氾濫による人的被害に加えて、浜町周辺などで甚大な経済的被害が生じました。これを受けて県は、河川とダムの整備による総合的な治水対策を行い、ほぼ完了した現在、中島川の周辺地域では大きな水害は発生していません。

長崎大水害 (昭和57年7月23日)



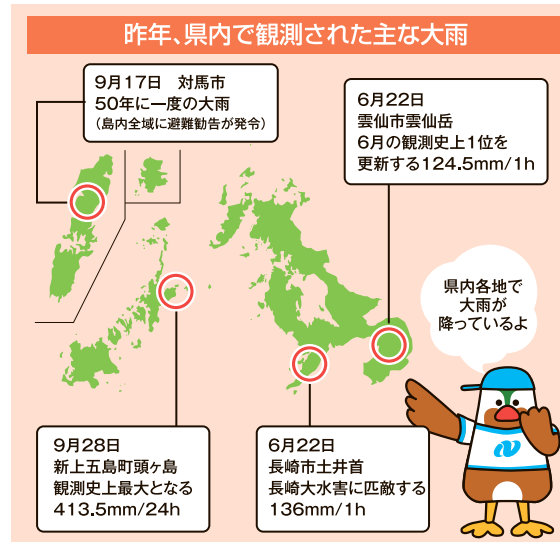
多くの家屋が流された眼鏡橋(諫早市)付近

日雨量約620ミリという大雨によって本明川が氾濫し、630名の尊い命が奪われました。諫早は集中豪雨が起こりやすく、大水害以降も1時間に100ミリを越える雨量が度々観測されています。諫早大水害と同程度の雨量に備えるため、河川の改修と合わせて、上流には本明川ダムの建設が国により進められています。

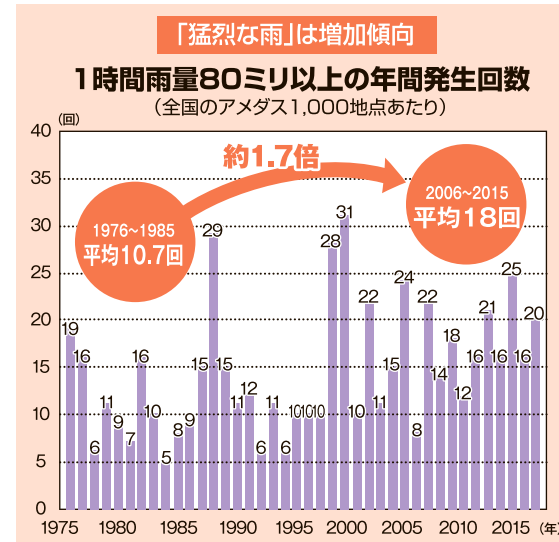
諫早大水害 (昭和32年7月25日)

近年の気象状況

近年、全国各地で大雨による災害が頻発していますが、1時間あたり80ミリ以上の「猛烈な雨」は増加傾向にあります。また、昨年は、本県においても記録的な大雨が観測され、今年も壱岐で「50年に一度の大雨」が観測されました。



(県河川課調べ)



(気象庁:気候変動監視レポート)

大水害の教訓と石木ダム建設事業

安心・快適なくらしをつくる県の取組

